

まいつる元氣人



陸上競技を通じて人間的な成長を

東舞鶴高校教諭

山口 有希 さん
ゆづき

アテネ五輪の陸上競技4×400メートルリレーで4位入賞を果たした元オリンピックで、今年度から教諭として東舞鶴高校へ赴任した舞鶴市出身で同校陸上部顧問の山口有希さん(32)。陸上競技との出会いから夢の五輪出場、そして教諭として子ども達に伝えたい思いを伺いました。

夢のアテネ五輪に登場

平成16年夏、アテネ五輪スタジアム(ギリシャ)は、トラック最終種目の4×400メートルリレー決勝。観客約8万人がひしめく大歓声の中、山口さんはリレーの第一走者としてトラックに立つていた。程よい緊張感。スタンドでは両親と中学・高校のクラブの恩師も見守ってくれている。夢の舞台でも不思議とリラックスしており、調子も悪くない。これからのスタートを前に妙な興奮もした。ピストルの音で400メートルのトラックを一周。第二走者へバトンを渡すまでは一瞬であった。良いレースほど流れる景色はほとんど覚えていない。そして、チームは4位に入賞した。山口さんはこう回想する。

「走ること」の楽しさを知ったのは、明倫小

のころ。運動会ではいつもぶつちぎりのトップ。市内の陸上大会では負け知らずで走ることに楽しさを覚えた。本格的に「陸上」を始めたのは城北中のクラブ活動から。当時の顧問であり、今も尊敬する指導者の秋原栄人先生(現・城

南中学校長)との運命的な出会いで山口さんはメキメキと力をつけた。雪で練習ができない冬場、「短い時間で効率よく練習する指導」など今でもその指導法に感服するという。そして、中学3年生の時、背丈とともに記録も飛躍的に伸び、全日本中学選手権などでも好成績を残し、陸上選手としての階段を上っていった。

府下で最も強豪校の洛南高(京都市)から進学の誘いを受け、元オリンピックである柴田博之先生の指導を仰いだ。五輪に出たいという志の高いチームメイトとともに切磋琢磨し、結果を出すために高い意識を持ち続けるということを学んだ。

そして、東海大在籍時にアテネ五輪選考会で出場権を勝ち取った。大学卒業後は、大阪ガス(株)に入社。平成24年6月に第一線を退くまで実業団選手として陸上とともに人生を歩んできた。

選手からの指導者へ

引退後は、大阪ガス(株)の社員として働く一方で、大阪大陸上部のコーチとして学生の指導を行っていたところ、自分の指導で選手が変わっていく姿に心を動かされた。小さい頃から

先生になりたいという夢。良い記録が出れば共に喜びあえる関係にも興味があった。「自分の人生、悔いが残らないように行動したい」。この思いは次第に膨らみ、気が付けば地元京都府教育委員会スペシャリスト選考の募集に応募していた自分がいた。そして、平成28年4月、高校教諭として生まれ故郷である舞鶴市の東舞鶴高校へ着任した。

陸上競技の楽しさを伝えたい

陸上部の顧問として大切にする理念は、「走りやすくすること」だけではない。競技を通して「何事にも頑張ること」や「仲間を大切にすること」、「自分を好きになってもらうこと」が何よりも重要だと語る。「生徒が陸上競技にしっかりと向き合える環境を与え、その先に人間的な成長があり、その結果として記録が伸びてくれれば良いと思っています。そして、これらのことを生徒自身が実感できるように細かい働きかけをすることだけです」と話してくれた。現在、東舞鶴高陸上部の部員は11人。最後に山口さんは、もつと部員を増やして互いに支え合い、工夫しながら、将来的には「五輪選手を育て上げたい」と次の夢を語った。

まいつる花図鑑

vol. 123

各地の山野で見られる半木性のつる植物。つるは長く伸び、葉と対生して節ごとに巻きひげを出し、木などに絡みつく。葉は長卵の12センチくらいで裏面に裂し、先は尖り縁に粗い鋸歯がある。夏、葉と対生して花序を出し、緑黄色の小さな花をたくさん付ける。秋には球形の径6〜8センチほどの果実を付けるが、ほとんどにタマバエが寄生して虫食い(※)となり、白・紫・青色となる。名前の由来は野にあるブドウの意。有毒植物。

【協力】瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)



ノブドウ (ブドウ科)
見ごろ 10～11月頃

※虫食い(虫こぶ)・・・植物に虫などが寄生・産卵することで発生するこぶ状の組織

